

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



地域への「思い」をカタチに

団体の皆さんの活動を支えるのは、地域をよくしたいという思いや仲間の存在です。

資金調達が必要な時には、補助金制度の活用も一案ではないでしょうか。

本市では「コラボ四街道」が活動のお手伝いをしています。

地域に広がる思い



四街道では、数多くの市民団体が身近にある課題に取り組み、魅力ある地域づくりを実践しています。そしてその地域活動を支えるため、補助金制度としてみんなで地域づくり事業提案制度「コラボ四街道」があります。

コラボ四街道には、これまで市民の皆さんから多くの事業提案が寄せられてきました。地域サロンの開催、里山保全、マップ作成など地域へのさまざまな思いがカタチになった事業があります。

今号では、コラボ四街道に採択された事業が、その役割や仲間を増やしながら地域へ広がって行く様子をお伝えします。

地域の居場所

平成22年みんなで地域づくりセンターが開催した地域づくりサロン「ワンデイシェフの魅力」参加者が、研修を重ね、空き家を活用した「日替わりシェフの店さくらそう」をオープンしました。地元で農作物を作る人、料理する人、食べる人みんな

ながめくもりを感じられるコミュニティレストランです。料理好きの市民がシェフとなり、日替わりで思いのランチの提供が始まりました。その後、食を通じて地域を笑顔にする取り組みをもっと知ってほしいとコラボ四街道に応募。チラシの作成や市政だよりへの掲載による広報活動の結果、来店者数が増加し、シェフのモチベーションが上がって、運営はますます充実していきました。

広がる役割

そのような中、さくらそうと地域包括支援センター、医療・介護の専門職でオレンジカフェ（認知症カフェ）が開催されることになりました。レストランだけでなく、

新たな地域の居場所としての役割を担うようになったのです。

オレンジカフェでは、理学療法士や作業療法士の指導による体操とおしゃべり会が行われ、当事者にも介護者にも一人一人に寄り添



さくらそうは市役所そば。人が集うのにぴったりの場所

う場所になるような工夫がされています。おしゃべり会の後はみんなで昼食。和やかな会食の時間が流れます。民家という空間も、参加者には居心地のいい場所のようです。また数年前、障害者福祉施設から地域へ貢献したいと相談があり、月に一度ボランティアとして施設の清掃を手伝ってもらっています。代表の毛見文枝さんは、「さくらそうは市役所近くの立地で利用しやすく、カフェ以外にも場所を提供することができそうです。子どもや若者、子育て世代の人たちにも、コミュニティの場として利用してほしいと思います」と話しています。

コラボ四街道
(市HPより)



日替わりシェフの店
さくらそう (Facebook)



子どもも大人も 笑顔あふれる場所に

旭ヶ丘みらい食堂（HP）



できたての弁当をそろりそろりと運ぶ子どもたち

こども食堂「旭ヶ丘みらい食堂」は、旭ヶ丘周辺の児童とその家族を対象に毎月第4日曜日に開催しています。コロナ禍の現在は、安価なランチのテイクアウトを行っています。

みらい食堂が始まったのは、令和2年9月。旭ヶ丘で生まれ育ち、自らも子育て世代の長谷川晃一さんが「まちの子どもたちが笑顔になるような恩返しをしたい」と地元で飲食業を営む旧友の三浦教頼さん、加藤真裕さんと共に立ち上げました。

令和3年度コラボ四街道事業として採択されて多数数用の調理器具を購入。作業が効率化されました。さらにホームページを開設し、注文を集約することで集計の手間も格段に減りました。

取材に訪れた日のメニューはビーフストロガノフ。「今日は牛肉だけで35kg分もあって、仕込みが夜中までかかっちゃったよ」とメインシェフの三浦さんは朗らかに笑います。

開設当初150食だった注文数は広報効果もあり、今回はなんと400食。受け取り当日の電話でのフォローなど注文者への思いやりと

一步を踏み出すお手伝い

今号でご紹介した「日替わりシェフの店 さくらそう」は、社会状況の変化の中で形を変えながらもコミュニティーの場として、10年来事業を続けています。一方「旭ヶ丘みらい食堂」は始まったばかりですが、多くの仲間が集まり、地域に笑顔を増やしています。その両方に共通することは、事業を始めた時にかなえない「思い」が賛同してくれた仲間から仲間へ、そして地域へ広がっていることでした。

春は、これまでの事業を振り返り、歩みを止めぬ計画を考える時期。そして次年度に向けて新たな事業を始める時期でもあります。そんなときコラボ四街道を利用するのも一案です。みんなで地域づくりセンターは、皆さんが持つアイデアをじっくり練り上げ、一步を踏み出すお手伝いをしています。

気配りも忘れません。

食堂には子ども、学生、大人など多世代のボランティアスタッフが集い、調理や店番など作業を分担しながら、交流の場ができていました。ここに集うみんながみらい食堂のファンなのです。

長谷川さんは作業を見守りながら「子どもに美味しいご飯を食べてもらうだけでなく、保護者が昼食の準備をせずに、子どもとゆっくり過ごす時間を持てたらいいなと思います。活動の趣旨に賛同される方は、できる時間で気軽に参加してくれたらうれしいです」と目を細めました。



協賛企業からは市内の福祉施設製のクッキーも届けられた

最近では、スタッフからの声掛けもあり、市内外を問わず協力も増えてきました。これからも活動が継続すること、そして市内にこども食堂を中心とした子育て支援の輪が広がるのがスタッフの願いです。

ピックアップ

地域づくりサロン

「みんなで災害支援を考えよう
障害のある人の支援2」
～福祉避難所って？～



社会福祉法人 福祉楽団
<https://www.gakudan.org/>

昨年5月の第1回に引き続き、11月10日「みんなで災害支援を考えよう～福祉避難所って？～」を開催しました。今回も多くの市民の関心を集め、障害のある人や市内の福祉避難所、障害者・高齢者施設従事者・地域の人など52人が参加しました。

被災時、障害のある人の支援において、《避難所までの避難の安全確保》《避難所での生活が不安なく過ごせること》が大きな課題です。

今回は、社会福祉法人福祉楽団理事長飯田大輔さんを講師に迎え「福祉避難所のリアル」と題した話を伺いました。2年前の台風被害時に、福祉避難所を立

ち上げ、要介護者の受け入れを行ったりアルな対応の話からは、多くのことを知る機会となりました。

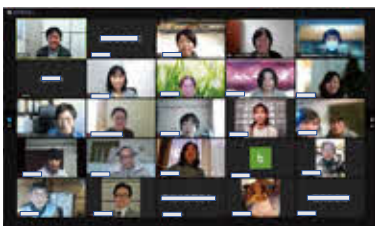
さらに講演後のワークショップでは、参加者それぞれの立場から福祉避難所へ避難する際の不安や疑問、支援について意見交換を行いました。

センターでは、参加者から出された意見や課題についてさまざまな関係部署と共有し、連携を進めていく予定です。さらに被災時の避難について広報活動を強化し、地域への理解促進や災害支援ネットワークの輪を広げ深めていきたいと思えます。

ピックアップ

子ども見守りサポーター養成講座

「北欧のとりにくみに学ぶ
コドモ×オトナ×対話でつくる社会」



12月11日、佐藤裕紀さん（新潟医療福祉大学講師）を迎え、オンライン講座「北欧のとりにくみに学ぶ～コドモ×オトナ×対話でつくる社会」を開催しました。

佐藤さんは四街道市出身、四街道こども記者クラブの初代代表など子どもと地域をつなぐ活動に取り組んでこられました。デンマーク留学を経て、比較教育学・生涯学習論の研究者として活躍されています。

講座では、評価されることなく安心して試行錯誤しながら学びや視野を広げる学校「エフタスコレ」、どんな背景の人でも自分のペースで学び、人生の道や喜びを探る学校「ホイスコレ」。偏見を受けやすい立場の人が「本」となって貸し出され、その語りに耳を傾ける「ヒ

ューマンライブラリー」など、多くの事例が紹介されました。

デンマークでは、草の根的に人々の手で作られた教育の運動が、社会を形作る上で大きな影響を与えたといえます。これらの取り組みも、デンマークだからこそできるわけでは決していないはず。この講座を受けて、1月9日には佐藤さんを囲んでアフタートーク会も行われ、福祉や介護、不登校支援や教育など、さまざまな分野に携わる参加者の皆さんが、この講座から得た知見を活動に生かし実践するための意見を交換しました。

「多様性」という言葉をよく見聞きするようになった今、「標準」から外れても生きやすい社会づくりが求められています。そのためのヒントがたくさん詰まった講座となりました。

お詫びと訂正

前号に表現が適切ではない記載がありました。お詫びして訂正いたします。

①見開き右側2段目 「粛々と再開を待つ」3行目

（誤）障害者雇用によるレストラン → （正）障害者の研修の場としてレストラン

②見開き右側2段目 「粛々と再開を待つ」14行目

（誤）雇用している障害のある若者 → （正）研修している障害のある若者

※訂正した「みんなで30号」は、センターのホームページからご覧いただけます。

みんなで31号

表紙の写真：「旭ヶ丘みらい食堂」代表の長谷川さん（最後列左端）と三浦さん（最後列左から2番目）、活動を支えるボランティアスタッフの皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火～金および第1・3土 9：00～17：00

（休館日は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）

電話：043（304）7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和4年3月1日 発行部数：4,500部

ホームページ



Facebook

